

tion は共に若い O.S. に組織の“もり上がり”として認められ、initiation の順序は O.S. の背軸側で珠皮が collar より早い、向軸側では確かめられなかった。珠皮の initiation は異なる 2 か所からごく小さなもり上がりとして同時に起こるように見えるが、initiation 後すぐに連続したリング状のもり上がりとなって珠心の基部をとり囲む。胚珠原基及び若い胚珠では、表層の細胞に大きさや形においてかなり変異が見られ、また表層より内側の組織には表層に対して垂直な多数の細胞列群が見られる。この細胞列群は表層より内側の細胞の並層分裂の繰り返しのことによってできると思われる。珠皮の伸長は表層より内側の細胞の並層分裂の繰り返しのによって起こり、厚さは垂層分裂の繰り返しのによって増す。表層の細胞には O.S. の生長期間を通じて垂層分裂が見られるが、珠心、珠皮及び collar の先端の表層には並層分裂も観察される。この並層分裂の頻度は生長期に無関係に珠心で最も高く、珠皮、collar の順に低くなる。成熟した O.S. では、珠皮は珠心を完全に包んで珠孔を形成し、collar は珠皮の基部をわずかに包む。クレータ状の形をした隆起がしばしば O.S. の向軸側あるいは側部に見られる。

○コガシアズマザサの新変種 (鈴木貞雄) Sadao Suzuki: A new variety of *Sasaella kogasensis* (Nakai) Nakai ex Koidzumi

東京の園芸家の間でコクマザサと称して鉢植えにした高さ 10 cm ほどの小さなササが出廻っている。それは牧野富太郎博士のコクマザサ *Sasa albo-marginata* (Makino) Makino et Shibata f. *minor* Makino [植物学雑誌 15: 25 (1901)] でないことは葉がずっと狭く、披針形で軟らかく、かつ下面に軟毛が密生していることですぐにわかる。肩毛は基部だけが粗浚で、ほかは全く平滑であることからアズマザサ属 *Sasaella* のものである。私は露地植えにして数年間栽培してみた。稈は高さが 30~40 cm、直径 1~2 mm となり、1 節から 1 枝を分岐する。その後は毎年新条がでてでもそれ以上には大きくならない。稈鞘は開出する長毛と逆向する細毛が密に混生し、節間は逆向の細毛があり、しばしば無毛、葉鞘は開出する長毛と細毛が密生し、しばしば細毛だけが密生する。葉は披針形または線状披針形、長さ 9~12 cm、幅 13~17 mm、紙状膜質、下面に軟毛が密生し、上面に長毛が散生するか、または無毛である。このような形質は関東地方北部から東北地方南部にかけてよく見られるコガシアズマザサ *Sasaella kogasensis* (Nakai) Nakai ex Koidzumi にきわめてよく似ているが、それは稈が高さ 1~2 m、直径が 4~8 mm に達してやや剛壮である。

いわゆるコクマザサはその後、鉢植えにされるほか東京都をはじめその周辺の神奈川県や千葉県の諸所で庭木の根じめや石付など、園芸的によく利用されていることがわかった。コガシアズマザサによく似ているが、それよりはるかに小形で繊細である

ことは固定した特徴なので、その新変種とし、和名はヒメシノとしたい。現在、栽培されているだけで、自生地は不明である。

*Sasaella kogasensis* (Nakai) Nakai ex Koidzumi in Acta Phytotax. Geobot. 10: 297 (1941); Suzuki in Journ. Jap. Bot. 51: 274 (1976).

*Arundinaria kogasensis* Nakai in Journ. Jap. Bot. 10: 745 (1934).

var. *gracillima* S. Suzuki, var. nov. A typo culmis humilibus gracilibusque, foliis minoribus angustioribus differt. Culmi 20–40 cm alti, 1–2 mm in diametro, graciles. Folia lanceolata vel lineari-lanceolata, 9–12 cm longa, 13–17 mm lata, chartaceo-membranacea.

Nom. Jap.: Hime-shino (nov.).

Hab. Japonia. Honshu. *Shimofusa*: Tsubakimori urbe Chiba, cult. (S. Suzuki, no. 9539, 22 Apr. 1977; no. 9578, 28 Jun. 1977—typus in Herb. Univ. Tokioensis). *Musashi*: Nakameguro, Meguro-ku, Tokio, cult. (S. Suzuki, 9250, 16 Mai. 1971).

This plant is most closely allied to *Sasaella kogasensis* (Nakai) Nakai ex Koidzumi especially in having densely pubescent culm- and leaf-sheaths with patent long hairs and retrorse minute ones, leaves pubescent beneath and glabrous nodes, but differs from it by the low and slender culms up to only about 40 cm in height and 1–2 mm in diameter, and by the smaller and narrower leaves. Therefore, I regard the plant as a new variety of *S. kogasensis*. This variety is merely cultivated as an ornamental plant and the place of origin is unknown.

(千葉県佐倉市 [redacted])

□森 邦彦：北日本産樹木図集. 463頁, B6, 1979年7月, エビスヤ書店(鶴岡市本町1-7-46), 5,000円。鶴岡市在住の主婦、故原直子氏が永年にわたって描きためられた植物図400点を、著者が簡単な記述を付して図鑑にまとめたものである。主婦の余技と云ってもいわゆる趣味植物画ではなく、画工顔まけの細密な線図で、観察眼の鋭さは驚くほどである。クマシデの果穂が直立しているといったほんのわずかな欠点はあるにしても、図鑑として十分有用なものである。アマチュアのすぐれた仕事を埋れさせることなく、顕彰された著者の努力を多としたい。巻末に著者の回想録と論文目録がある。

(金井弘夫)